

東京～山梨・長野 交通強靱化プロジェクトの取り組みについて 知事コメント

令和2年3月30日

- 令和元年東日本台風では、東京都・神奈川県・山梨県境において、中央本線、中央自動車道、国道20号が同時に被災し、東京方面への交通が寸断され県民生活に深刻な影響を与えました。
- このような事態を二度と起こさないため、強靱化に向けて関係機関が連携して取り組むことが必要と捉え、沿線自治体と施設管理者に呼びかけ、本年1月に交通強靱化に向けたプロジェクトを設立し、今回の災害で露呈した脆弱性の検証や課題を共有するなど検討を進めて参りました。
- この度、「中間取りまとめ」としてプロジェクトの成果がまとまりましたので、皆様にご報告させていただきます。
- 交通強靱化に向け、関係機関で必要な取り組みの3つの方向性を確認しました。
- 一つ目は、脆弱箇所の強靱化であります。中央自動車道、国道20号、中央本線の個別路線の機能強化を推進するとともに、3路線が近接並走している区間等では、リダンダンシー確保に向けた抜本的な対策の検討も行うこと。
- そして、寸断影響を最小化する広域迂回路として、現在、事業中の中部横断自動車道、国道138号須走道路・御殿場バイパス等の整備を推進すること。

- 二つ目は、復旧作業の効率化であります。各施設管理者と沿線自治体及び地元建設業者が復旧工事に関する協力体制を事前に構築することや、管理者間の連携強化により、早期に復旧出来る体制づくりを検討すること。
- 三つ目は、災害発生時における交通マネジメント強化であります。交通情報の共有や広域迂回路への案内など、利用者へ速やかに情報提供される仕組みを強化し、影響の最小化を検討することです。
- 今後は、本プロジェクトで検討を行った方針を踏まえ、①道路に関するもの、②鉄道に関するもの、③災害発生時の交通マネジメントに関するもの、の3つ部門に分け、取り組み体制を構築していくことについても合意いたしました。
- 本プロジェクトでは、今後も関係機関と連携し、役割分担を定めながら強靱化に向けた取り組みを進めて参ります。

山梨県知事 長崎 幸太郎